ITSUMEIKAN KEISHO
MEDIA REPORT
立命館慶祥メディア通信
2022年度　第9号
発行日 2022年12月1日
発行者　橋本　玲子

12 月 1 日(木)～長期貸出開始です

★ 貸出冊数　：7冊まで

★ 返却期限日：1月16日（月）

開　館　日　程

12月	メディアセンター		情報処理教室　1
	利用時間	AV 機器･コンピュータ利用	
1 日(木)･2 日(金)	通常開放(～18:15)	利用可能	通常開放(～18:15)
3 日(土)	土曜開館(12:00～15:30)	利用可能	×利用不可×
4 日(日)	閉　　館		
5 日(月)～9 日(金)	通常開放(～18:15)	利用可能	通常開放(～18:15)
10 日(土)	土曜開館(12:00～15:30)	利用可能	×利用不可×
11 日(日)	閉　　館		
12 日(月)～16 日(金)	通常開放(～18:15)	利用可能	通常開放(～18:15)
17 日(土)～1 月 12 日(木)	休　　館		

※冬休み中は、蔵書点検・書架整理のため休館させていただきます。

今 月 は 二 冊

『その意図は見えなくて』 藤　つかさ:著

同級生と比べてしまったり、将来に悩んだり、圧倒的な才能を持つ生徒を前に諦めてしまったりする高校生男女。自分とは何者?これから先は?と悩みながら日常の謎を絡めて描かれます。

『新！　店長がバカすぎて』 早見　和真:著

人気作『店長がバカすぎて』の第2弾。超多忙で薄給、書店の契約社員谷原京子。お客様のクレームは日常茶飯事で、店長は人をいら立たせる天才だった。あの店長が、3年ぶりに戻ってきた！

本屋大賞 2022 ノンフィクション本大賞 決定！

第五回「本屋大賞 ノンフィクション本大賞」が決定しました！

☆大賞☆

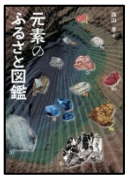
川内 有緒『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』

「白鳥さんと作品を見るとほんとに楽しいよ！」友人マイティの一言で、「全盲の美術鑑賞者」とアートを巡るというユニークな旅が始まった。（中略）軽やかで明るい筆致の文章で、美術館めぐりの追体験を楽しみながら、社会を考え、人間を考え、自分自身を見つめ直すことができる　**（発行元：集英社インターナショナルより）**

他ノミネート作品・題材 ⇒

『朝日新聞政治部』〈元エース記者が登場人物実名で書く、朝日新聞の内幕〉
『嫌われた監督 落合博満は中日をどう変えたのか』〈稀代の名将の実像に迫る〉
『さよなら、野口健』〈登山家野口健がさまざまな社会貢献を続ける本当の理由とは？〉
『ソ連兵へ差し出された娘たち』〈敗戦直後の満洲、皆を守るための開拓団究極の決断とは？〉
『妻はサバイバー』〈結婚 4 年目、摂食障害、アルコール依存症を発症した妻の介護と仕事の両立に、20 年近く悩み続けた壮絶な体験を朝日新聞記者の夫が綴る〉

今月の新着図書

	『それでも、世界はよくなっている』 ラシュミ・サーデシュパンデ：著 「悪いニュースがこれだけ世の中を飛びかっていると、そういうことをつい見落としてしまう（中略）世界はよいことをしているよい人たちにあふれていて、世の中がグッドニュースにあふれている」←あとがき「これからのこと」より。悪いことよりも注目されにくい、良い事実にも気付きたいです。
	『プログラマーは世界をどう見ているのか』(SB 新書)　西村 博之：著 イーロン・マスクやジェフ・ベゾスなどなど世界のトップ層はプログラマー出身だそうですね。簡単なコードが出てきますが、文系出身の著者がプログラミングを学んだことがない人でも理解できるように書いています。プログラマーの思考法を体験してみませんか。
	**『元素のふるさと図鑑』 西山 孝：著** 生活に欠かせない元素である金属（メタル）は、地球上のどこに、どれくらいあるのか。長い歴史のなかで、取りつくしたメタルの報告はない。それは、鉱床の発見や特に採鉱、精製の技術を進化させているからだそう。元素の価格やハイテクを支えるレアメタルの章もあり、興味深いです。
	『語学の天才まで 1 億光年』 高野 秀行：著 辺境ノンフィクション作家の青春記。英語に始まり、25 以上の言語を体験しています。現地のネイティヴに習い、テキストの自作も。各国、民族の言語同士の相関についての解説などなど、語学上達のヒント満載？かもしれません。語学や海外に興味のある方、面白いと思います。
	『恋愛問題は止まらない』 吉野 万理子：著 中高一貫の私立高が舞台。中学生たち（先生など大人も登場）30 人、ひとりひとりが主人公の 30 話で連作の形になっています。登場人物それぞれの恋愛問題、一緒にドキドキしませんか。5 年後の話もあります。